

門信徒広場

仏教では、「方位」に意味を持たせ、味わうことをよくします。

『仏説阿弥陀経』の中にも「六方段」と呼ばれる部分があります。「東、南、西、北、下、上」の六方向（つまり全方向）の世界の仏様方が、阿弥陀如来の徳を讃め称えている部分です。

また、『六方礼経』というお経の中で、お釈迦様は次のようなものに感謝して六方を礼拝しなさい、と説いておられます。

- 東→先祖、父母
- 西→夫婦、家族
- 南→先生、師匠
- 北→友人、仲間、お客様
- 上→天、太陽、空気、大気、宇宙、
- 下→部下、上司、土地、食物、自然

実は、右に紹介しました「善財童子」の旅も方位が関係しています。

問 さて、ここで問題です。「善財童子」は、人生の真理を求めて、どの方向に旅立ったのでしょうか？

分かった方は、光遍寺までご連絡ください。先着5名様まで、記念品を用意しております。

《前号(第23号)門信徒広場の答え 一年前の新聞ですが、覚えておられますか？

正解 ④です。

仏様の智慧を表すのは口ウソク!の光です。



迎春

さて、年始にあたり、「今年こそは...」と誓われた方も多いのではないのでしょうか。私も含めて、来年の年始



新年明けましておめでとうございます。旧年中は光遍寺護寺発展のため、ご尽力をいただきありがとうございます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

には、「今年も...」と誓えるような一年にしたいものです。そのような生き方のヒントとして、華嚴経(げごんぎょう)の中に出てくる「善財童子(ぜんざいどうじ)」の物語が参考になるかもしれません。

インドに善財童子という少年がいました。お金持ちの子供でしたので、なに不自由なく過ごしていました。頭の良いいことにかこつけて、毎日遊んでばかりいましたので、みんなからは馬鹿にされていました。ある日のこと、それに気がついた善財童子は、心を入れ替え勉強しようと思いい立ち旅に出ました。いろいろな人々を、訪ね歩いて教えをうけて回りました。その訪ね歩いた人たちの数が



「五十三人」、「東海道五十三次」はこれに由来します。それらの人々は、決して世間一般でいう立派な人たちばかりではなく、蔑まれるような職業の人や、子供までいました。そして、善財童子は気づくのです。「私と出会うどんな人も、私を真実へと導いてくださる善知識(ぜんじしき)なんだ。」こうして彼は、真実に目覚めていった、というお話です。

まさに、そのような人生を送られたのが親鸞聖人でした。どんな苦悩を強いる人々をも「善知識」と仰ぎ、手を合わせて生き抜かれました。ほら、隣に座っておられるこの人も「善知識」、先ほど会話に出てきたその人も「善知識」、ちよと苦手なあの人も「善知識」...そういう視点が持てれば、きっと今年も「もう一度過ごしたくなるような素晴らしい年」になることでしょう。

光遍寺境内にある手水鉢(ちょうずばち)の龍の口(たつのくち)が新しくなりました。これまでの龍の口は、長い年月によっていたるところが錆び、角も折れていました。そこで、埼玉県の寺中竹子様、黒滝村の吉村明子様、和歌山県の辻浦照美様、大阪市の新井順子様が寄付してくださり、新調することができました。手水鉢の前に立つと、青黒く光る龍の口に、自分の心の中を見透かされるような鋭い視線で見つめられます。光遍寺にお参りの際には、是非ご覧ください。

光遍寺新聞



第 24 号

発行所

〒638-0315
奈良県吉野郡
天川村沢原 141
浄土真宗 本願寺派
仏照山 光遍寺

電話番号
0747-63-0638
ホームページ
<http://www.kouhenji.org>

今月の法語

見えぬけれども
見えぬけれども
あるんだよ
あるんだよ
(金子みすず)



この仏華の秘密は？

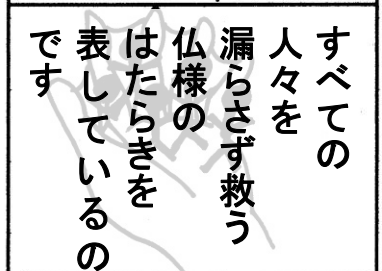


左の写真は、お正月に光遍寺の内陣にお供えた仏華です。例年は、赤井正一様が、一手に引き受けてくださっていましたが、

本年は体調不良のため、仏教壮年会の皆様が協力して花を生けてくださいました。なかなかの出来栄で、心のこもった仏華です。

今後も門信徒が協力して光遍寺の護寺運営にあたっていただくことが、ご先祖のご恩に報い、子孫に対する責任を果たすことにつながります。そして何より、光遍寺は、私たちが力強く生きていくための心の拠り所なのです。

それいけ 阿弥ちゃん!!



平成 26 年 光遍寺行事予定

カレンダーに記入し、一度でも多く光遍寺にお参りください!

3月18日(火)~24日(月) 春の彼岸会

真西に太陽が沈む春分の日(秋の彼岸会は秋分の日)の前後三日間に、ご先祖がおられ、私も還っていく西方極楽浄土を想い、仏縁に会っていく、日本独特の風習です。
 毎晩 午後7時30分より 仏説阿弥陀経+讃仏偈(最高5回まで)+法話
 *毎回お供え物のお下がりを持って帰っていただきます。

4月12日(土)、13日(日) 春の永代経・花祭り

花祭りはお釈迦様の誕生をお祝いし、感謝する行事です。
 (春とお盆の)永代経はご先祖の遺徳を偲び、ご先祖に導かれ私が仏縁に会い、永代にお念仏を継承していただくことを誓うお勤めです。

花祭り：12日午前11時より 讃仏偈+法話+甘茶かけ+花ご飯(ちらし寿司)

昼座：午後2時より 夜座：午後7時30分より

(一日目) 昼座：仏説無量寿経+法話 夜座：仏説観無量寿経+法話

(二日目) 昼座：仏説阿弥陀経+法話 夜座：正信偈+法話

【布教使】御所市 正福寺 冬野正隆 先生

6月?日(土) 第33回法灯の宴

敷居が高いと思われがちな光遍寺に、誰でも気軽に足を運んでもらえるようにとカラオケや出し物による宴を企画してくださったものです。

8月10日(日)、11日(月) お盆の永代経

昼座：午後2時より 夜座：午後7時30分より

(一日目) 昼座：仏説無量寿経+法話 夜座：仏説観無量寿経+法話

(二日目) 昼座：仏説阿弥陀経+法話 夜座：正信偈+法話

【布教使】宇陀市 眞證寺 高沢邦雄 先生

9月20日(土)~26日(金) 秋の彼岸会・天皇会

天皇会では光遍寺と縁が深い後醍醐天皇のお墓にお参りをします。昔は放生会(ほうじょうえ)として、秋の永代経と兼ねて天川村最後の盆踊りもしていましたが、秋の永代経が廃止され、今は秋の彼岸会の中日に、その形跡を残すのみとなりました。

毎晩 午後7時30分より 仏説阿弥陀経+讃仏偈(最高5回まで)+法話

*23日は午後7時より後醍醐天皇陵にて讃仏偈をお勤めします。

*毎回お供え物のお下がりを持って帰っていただきます。

10月11日(土)、12日(日) 報恩講

報恩講は親鸞聖人のご遺徳を偲び、改めて真の仏教徒として生きることを誓う、浄土真宗では最も大切な法要です。

昼座：午後2時より 夜座：午後7時30分より

(一日目) 昼座：初夜礼讃(経本は貸出します)+法話

夜座：住職による御絵伝の解説+法話

(二日目) 昼座：大速夜(仏説阿弥陀経、参拝者焼香)+法話

夜座：正信偈+法話

【布教使】広橋 法泉寺 稲葉芳道 先生

*11日昼座後にはお斎(事前申し込み必要)があります。

10月28日(火)、29日(水) 第37回念仏奉仕団

本願寺に1泊2日で、清掃奉仕を行います。37年も続いているお寺は全国でも珍しいです。参加申し込みは後日行います。

12月31日(火)、1月1日(水) 除夜会・修正会

午前0時ちょうどに釣鐘を撞き始めます。一年の初めを阿弥陀さまの前で迎えます。

午前0時15分より 正信偈+法話